

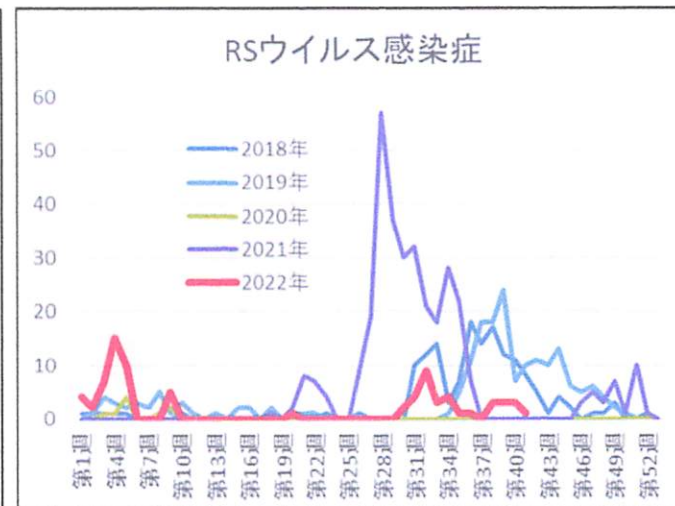
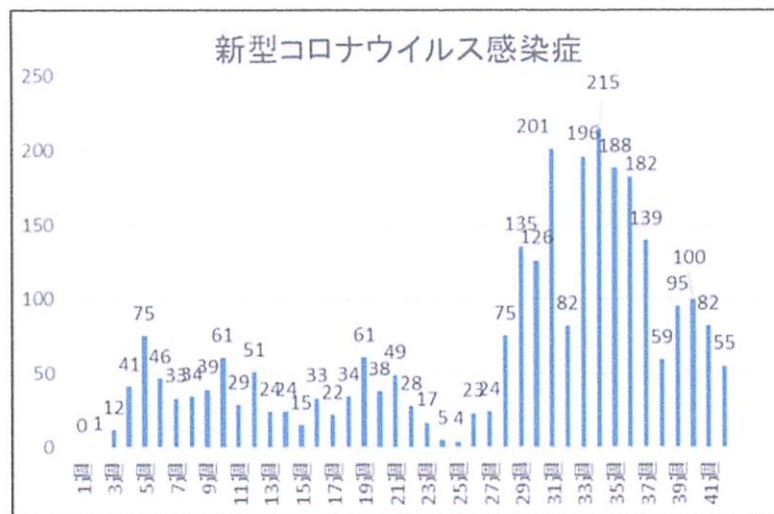
週間感染症情報

2022年40-42週 2022年10月3日より2022年10月23日まで

40週 41週 42週

麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)	1	2	
ムンプス(おたふくかぜ)		1	1
百日咳			
溶連菌感染症		1	
手足口病	1	10	12
ヘルパンギーナ			
伝染性紅斑	1		
感染性胃腸炎	18	10	6
ロタウイルス(再掲)			
便中ウイルス(再掲)			
突発性発疹	2	3	1
伝染性膿痂疹(とびひ)	1	3	1
ヘルペス性口内炎			
アデノウイルス感染症	1	2	0
RSウイルス感染症	3	1	3
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス	5	4	2
インフルエンザ			
インフルエンザ A			
インフルエンザ B			
新型コロナウイルス感染症	100	82	55

40-42週の3週間の報告です。左下のグラフの様に新型コロナウイルス感染症の報告数は減少していますが、下がりきっておらず、寒くなるとともに増加に転じ次の流行が懸念されています。(報告数は内科患者を含み、38-39週は未集計の報告を含みます。訂正してお詫び申し上げます。) 小児や若い人でワクチン未接種の人が多く、軽症例が多いです。寒くなり、感冒症状の小児が増えてきました。ヒトメタニューモウイルスは減少傾向です。検査キットが手に入りにくいのでその影響もあるかもしれません。RSウイルス感染症の報告が増えています。右下のグラフの様に、2021年は夏から秋にかけて大きな流行がありました。今年は例年のようにこれから流行するのでしょうか。年少児にとってはコロナよりこわい病気です。年少児の手足口病の報告が増えています。高熱が出るタイプと発疹のみのタイプの2週類があるようです。感染性胃腸炎の報告は多くありませんが、これからノロウイルスの流行する季節になります。アメリカでは、感染対策の緩和とともに、コロナとインフルエンザ、RSウイルス感染症が増加して、小児救急が逼迫しています。日本では、この2シーズンインフルエンザの流行はなく、感染対策によってインフルエンザの流行は抑え込めることがはっきりしました。インフルエンザの報告はありませんでした。今まで通りメリハリのある感染対策をしっかりとこの冬を乗り切りましょう。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)